

●アンボンドケーブル●

ケーシーエル

ケーティービー

KCL工法, KTB工法

問合せ先：㈱ケーティービー 〒160 東京都新宿区西新宿8-20-2 (アイリスビル)
TEL. 03-3369-7211 (代表) FAX. 03-3369-7339

1. 工法の概要

アンボンドケーブルの使用に当たって、モノストランドで扱う場合と、マルチストランドで扱う場合がある。おのこのKCL工法, KTB工法で対応できる。アンボンドケーブルの種類としてシングルシースとダブルシースとがある。図-1に表す。PCストランドの種類としては、裸ストランドとエポキシ系塗料による完全塗装型PCストランド (SCストランド) とがある。

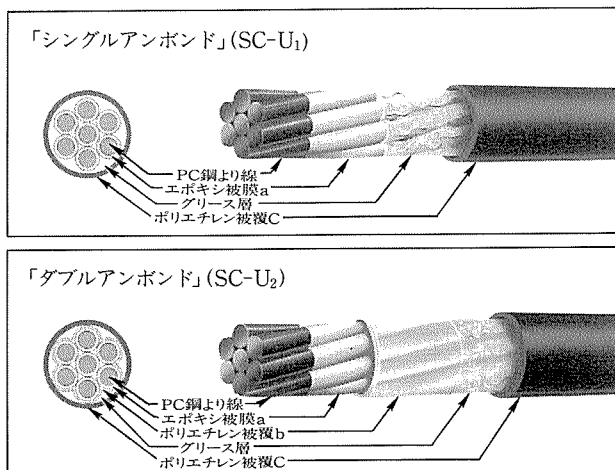


図-1 アンボンドケーブルの種類

2. 定着具

KCL工法, KTB工法に準じるが、定着具に接続される個所のオーバーシースの切り取りおよびその処理に一般

グラウト方式と異なる扱い方をする。たとえば、スリーブタイプの定着用支圧板の孔は、アンボンドの外径に合わせて1本ずつ開けることによって、コンクリートのセメントミルクなどが流出しないようにする。プレートタイプの固定端に用いる圧着グリップと支圧板との接触面が少なくならないように考慮して、支圧板に開ける孔径、その付近のオーバーシースの取扱いにも注意している。また、在来の圧着グリップの外径をサイズアップ (約+5mm) して、圧着グリップと支圧板の支圧面を確保するなどである。

特にシングルストランドで緊張するのに便利な定着具 (スリーブと支圧板とが一体となっていて、アンボンドシースと定着体との接続が容易になっている) として、キャストタイプがある。

ただし、定着具の種類、寸法は、KCL工法, KTB工法と同じであり、119頁, 43頁にこれらについての表記がある。

3. PC鋼材, 緊張方法

KCL工法, KTB工法に準じている。

KCL工法, KTB工法の緊張では、操作盤付きのジャッキを用いることにより、粘弾性材の特性を持つアンボンドストランドの伸び管理に対応できる。摩擦係数 μ は、 $\mu=0.04$, $\lambda=0.002$ を標準としている。

4. その他

従来の小バリ, スラブなどへの応用のほかに、斜張ケーブル, 外ケーブルへの応用例が多くなっている。